

「心をひとつに～つなげようみちのくの未来へVI～」特別企画

宮城県七ヶ浜国際村パフォーマンスカンパニー

ミュージカルグループ NaNa5931

ミュージカル

ゴーへ

【Go Ahead】

私たちはいつだって君のそばにいるよ。

震災後遺された人たちの前に現れたふしぎな姿の者たち。
彼らとのユーモラスでファンタスティックな触れ合いを通して、
先祖から受け継がれた七ヶ浜気質「先取りスピリット」「ゴーへ」
に気づいていく。

(「ゴーへ」とは七ヶ浜町の漁師言葉で「前に進む」の意味)

2019年 3月9日(土)
17:00 開演

【第一部】防災カフェ (15:00開場)

15:30 防災十ヶ条紙芝居 (紙芝居師なっちゃん)

15:45 防災座談会 (松尾崇鎌倉市長、寺澤薫七ヶ浜町長ほか)

鎌倉芸術館小ホール

全席自由 **1,000円**

(第一部との共通チケットです)



【主催】3.11ALL鎌倉実行委員会

【お問い合わせ先】090-3407-8699 (中里)

3.11 鎌倉 実行委員会

FOR OUR FUTURE KAMAKURA

311allkamakura.com

ゴーへ (Go Ahead)

【ゴーへ (Go Ahead)】七ヶ浜の漁師言葉。船を進める時に使う。

灯籠流しの夜。波にゆれる鎮魂の灯。遺された者たちは心に深い傷と喪失感を抱え、呆然と立ちすくみ、かすむ灯りを見つめている。それぞれのつぶやき、叫び、呼びかけの音が交差する。
「あかねちゃん!」「おとうさん!」「タケシー!」「じいちゃん!」「あすかー!」「ママアー!」「ばあちゃん!」「ごめんね、苦しかったね、ゆるしてね」…その足元に「ケロケロケロ」カエル!?

「しっかりしてケロ」「えっ?」「なげかないでケロ」「エーツ、タケシ? タケシなの?」あっちでもこっちでも不思議な者たちが遺族たちに語りかけている。フクロウ、クモ、こもり、でんでんむし、うさぎ…。

「わたしたちはいつだって君のそばに居る。なのに気づいてくれないんだ。仕方がないから、空の神さまからお借りしてきた仮の姿でごぜえます」「やっとなんか気づいてくれました」

不思議な者たちと遺された者たちとのユーモラスでファンタスティックな触れ合いを通して、先祖から脈々と受け継がれた七ヶ浜気質"Go Ahead" "先取りのスピリット"に気づいてゆく。

震災後、被災地七ヶ浜において初めて創られた舞台「ゴーへ Go Ahead」。梶賀千鶴子書き下ろしによるオリジナルミュージカルを10年以上のキャリアを誇るNaNa5931のメンバーが演じます。この土地から子どもたちの未来を創ろうとする作品です。七ヶ浜から発信される元気なステージをお楽しみください。

【作・演出・振付】梶賀千鶴子
【音楽】ヒロセ純・y2 (作曲)
只野展也 (編曲)

【衣装】SCSミュージカル研究所衣装部
【衣装製作協力】七ヶ浜おはりこーず
【プロデュース】廣瀬純 (純クリエイション)



NaNa5931

七ヶ浜国際村の劇場付きミュージカルグループとして2001年4月に設立。今年で18年目を迎えた。小学生から社会人まで幅広い年齢層で構成された35名のメンバーは、毎週木曜日の定期レッスンを中心に活動を行いミュージカルを通じた身体表現の研鑽を重ねている。

2002年11月七ヶ浜国際村開館10周年記念事業としての旗揚げ公演「NaNa」を皮切りに、2005年2月宮城県民会館での公演「MEGURU」、2006年11月に町のキャッチフレーズ「うみ・ひと・まち」3部作の最終作となる「KAIRI(海里)」、2007年七ヶ浜国際村開館15周年を記念した「太陽と星の記憶」、2008年七ヶ浜町制施行50周年を記念した「KIZUNA」を見事成功させるなど、毎回成熟を見せる舞台表現でますます評価が高まっている。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では七ヶ浜町も大きな被害を受け、メンバーやスタッフも被災した。練習場所である国際村も避難所となるなか4月には練習を再開。被災者に歌やダンスを披露し元気を届け続けた。

2011年11月、震災を乗り越え前に進んでいこうという気持ちを込めた「ゴーへ Go Ahead」を上演。翌年8月に名古屋大学「豊田講堂」、9月にはミュージカルの聖地東京「日生劇場」においても大成功を収め、全国各地から賛辞の声をいただいた。2015年11月、「ゴーへ Go Ahead」と対をなす「ゴスタン Go Astern」発表。

毎年3月に鎌倉市役所駐車場で行われている震災支援・防災啓発イベント「心をひとつに」で何度もステージパフォーマンスを披露しているほか、2018年3月には鎌倉芸術館で「ゴーへ」の公演を行い鎌倉市民からも大好評を得た。今回2度目の芸術館での公演となる。

NaNa5931



七ヶ浜町について

宮城県七ヶ浜町は、日本三景のひとつ「松島」の南端に位置する仙台湾に突き出た半島状の土地である。江戸から明治にかけて作られた貞山堀(運河)により陸地と切り離され、島のような状態となっている。

東北地方で一番小さな面積の自治体。七ヶ浜の由来は、浜ごとに7つの集落があったことから。気候は比較的温暖であり、東北の湘南と称される菖蒲田浜海水浴場は多くの海水浴客で賑わう。

海に囲まれているため近海での漁のほかワカメや海苔の養殖などが盛んで、特に海苔は「皇室献上品」とされるほど品質がよい。近年はルバーブ栽培にも町をあげて取り組み始めている。

東日本大震災では最高浸水高12.1mの津波が到達し、町面積の36.4%に津波の浸水被害が及んだ。94名の町民が犠牲になり、36ヶ所に設けられた避難所には最多で6,143名の避難者が身を寄せていた。仙台市内から比較的に近いこともあり、震災直後から多くのボランティアが集結。町役場を中心に、ボランティアセンター、住民が一体となり復旧・復興活動、新たなまちづくりが進められた。災害公営住宅や高台住宅団地が整備され、壊滅的な被害を受けた花浜浜には観光拠点として「七ヶ浜うみの駅・松島湾海鮮市場 七のや」、宿泊施設「シチノリゾート」がオープンした。2017年3月31日に町内すべての仮設住宅が供与を終了。既存のコミュニティを尊重し、地域のきずなが確保できるような震災後のまちづくりは、自治体運営の手本となるべきものである。

鎌倉七里ガ浜の自治会住民が中心となった支援団体「七七支援隊」の活動がきっかけで、2015年七ヶ浜町と鎌倉市は防災時などの相互扶助協定となるパートナーシティの関係を結んでいる。



紙芝居師なっちゃん (第一部)

紙芝居師なっちゃん(中谷奈津子) 明治学院大学社会学科卒業後、NHK金沢放送局契約アナウンサーに。退局後、役者・フリーアナウンサーを経て、2009年紙芝居師なっちゃんとしての活動を開始。全国各地(その土地土地)に伝わる「伝説」「昔話」から「方言」「慣習」などを紐解く『ご当地紙芝居』『日本のカミサマ紙芝居』を展開している。東日本大震災以降は、継続的に震災復興地に足を運び、岩手・宮城・福島の子どもたちや仮設住宅に暮らす皆様、復興イベントなどで紙芝居を披露し、東北復興地に元気と笑顔を届ける活動を継続中。

石川県出身。2015年よりいしかわ観光大使。鎌倉市在住。 <https://kaminacchan.amebaownd.com/>

